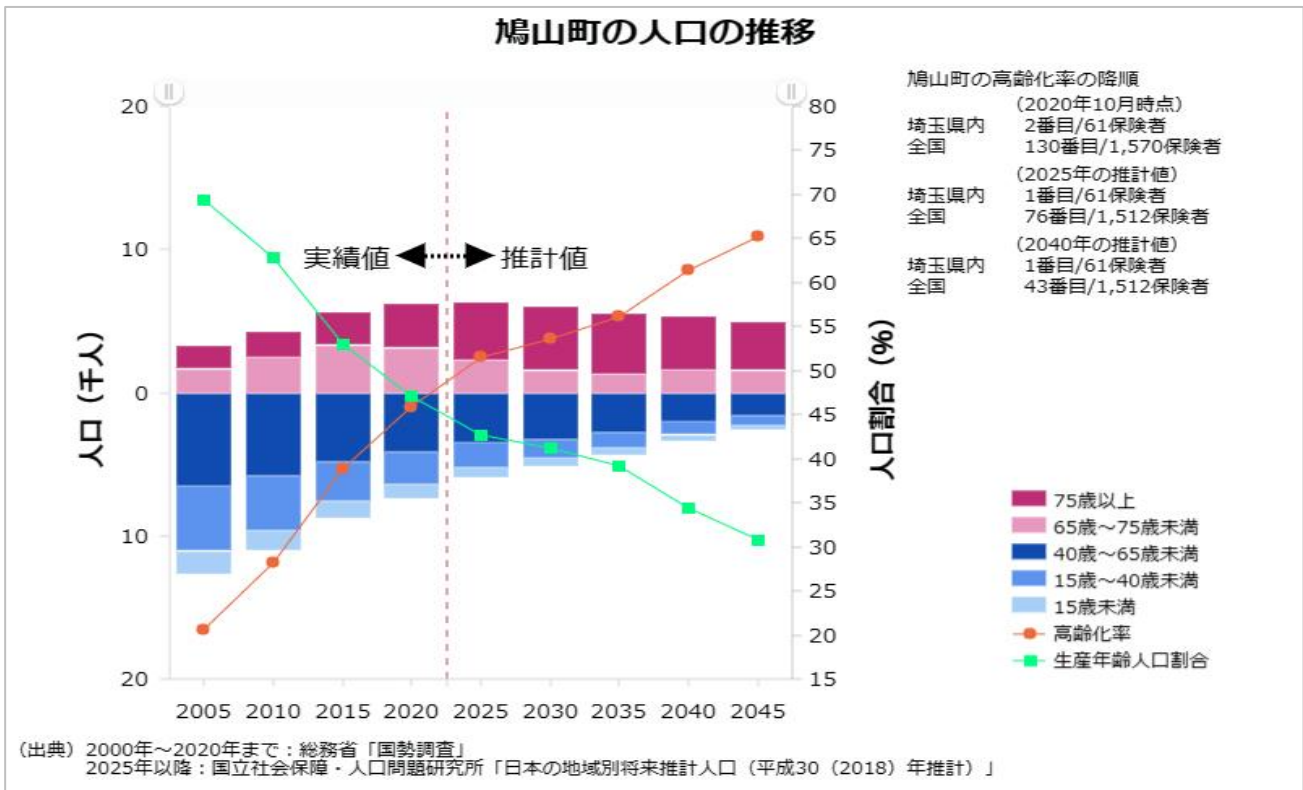


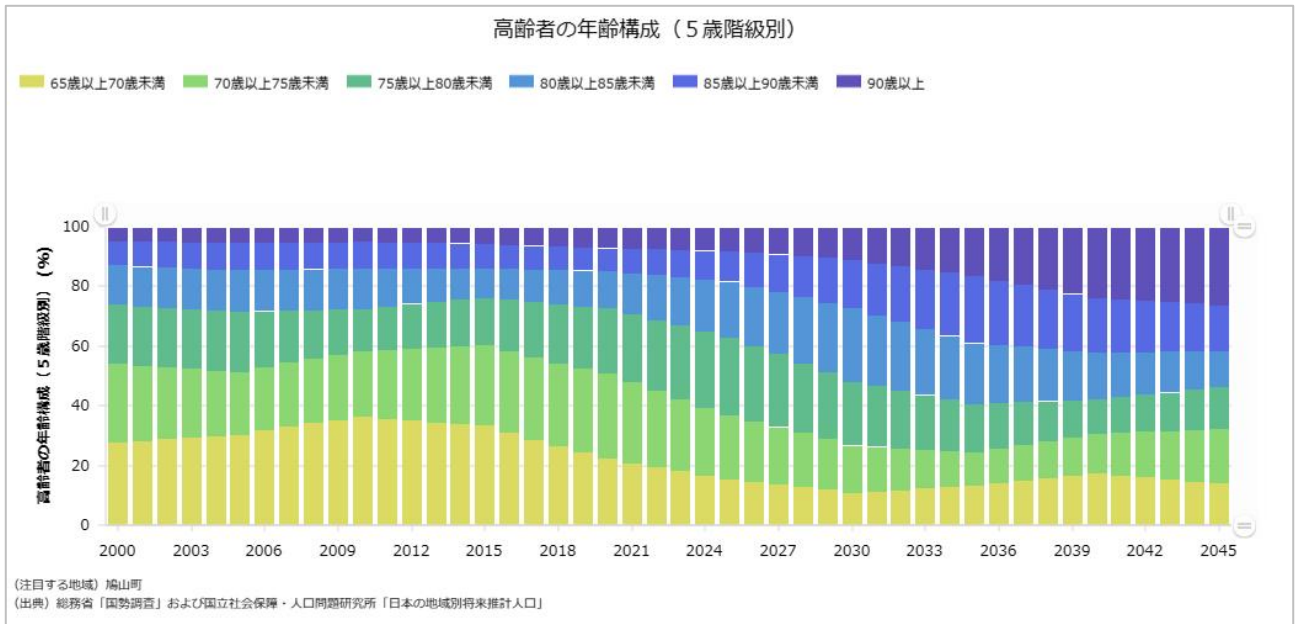
鳩山町の現状

(厚生労働省「見える化システム」より)



全国的に少子高齢化社会を迎えていますが、鳩山町では2020年に、高齢化率が生産年齢人口(15歳から64歳までの人口)割合より高くなりました。

また、前期高齢者と後期高齢者の構成についても、後期高齢者の構成が高くなり、超高齢社会を超え、全国的にも類を見ない状況を迎えています。



		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
鳩山町	前期高齢者割合 (%)	50.7	47.8	45.0	42.2	39.4	36.7	34.8	32.8	30.8	28.8	26.7
鳩山町	後期高齢者割合 (%)	49.3	52.2	55.0	57.8	60.6	63.3	65.2	67.2	69.1	71.2	73.3
埼玉県	後期高齢者割合 (%)	50.1	52.1	54.0	55.8	57.7	59.4	59.8	60.2	60.6	61.0	61.3
全国	後期高齢者割合 (%)	51.6	53.2	54.8	56.3	57.8	59.3	59.7	60.2	60.7	61.1	61.6

(注目する地域) 鳩山町
 (出典) 総務省「国勢調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

高齢独居世帯の割合



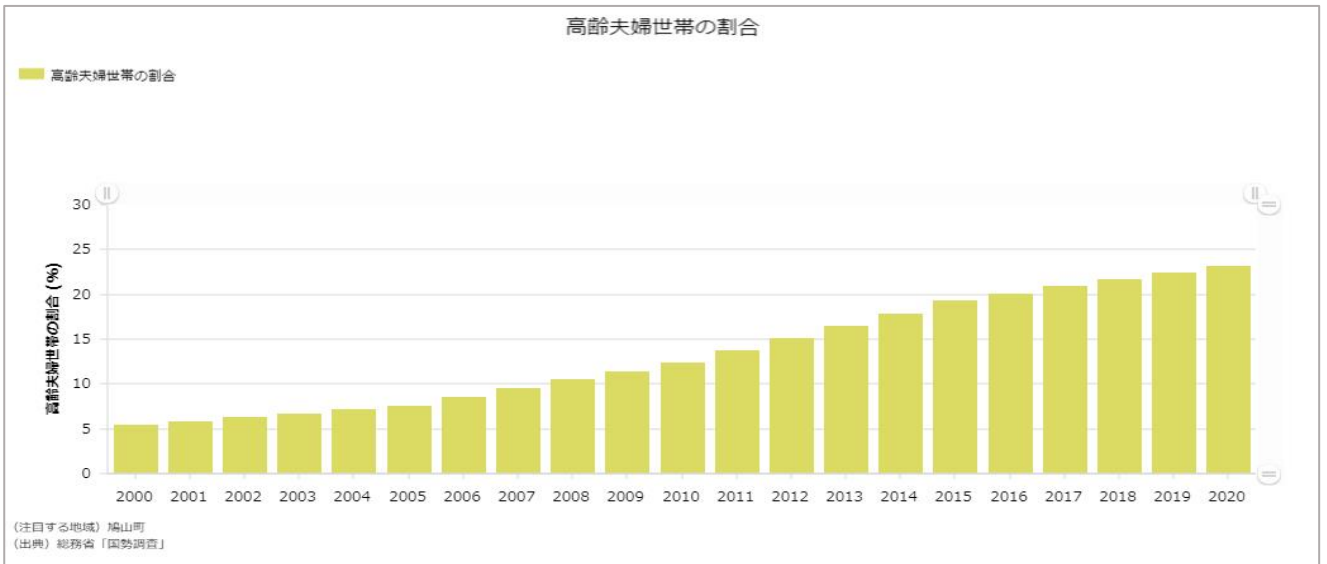
			2015	2016	2017	2018	2019	2020
鳩山町	高齢独居世帯の割合	(%)	10.0	10.8	11.6	12.5	13.3	14.1
鳩山町	高齢独居世帯数	(世帯)	530	575	620	666	711	756
鳩山町	総世帯数	(世帯)	5,292	5,309	5,327	5,344	5,362	5,379

(注目する地域) 鳩山町
(出典) 総務省「国勢調査」

鳩山町の世帯については、この5年で世帯数は87世帯の増加の中、独居高齢者世帯は226世帯、高齢夫婦世帯は225世帯増加しています。

この増加の中には、世帯分離によって高齢世帯になった状況も含まれますが、実際の高齢独居又は高齢夫婦の世帯も増加しています。いつまでも地域で生活するための高齢福祉サービスの充実は、より一層必要とされています。

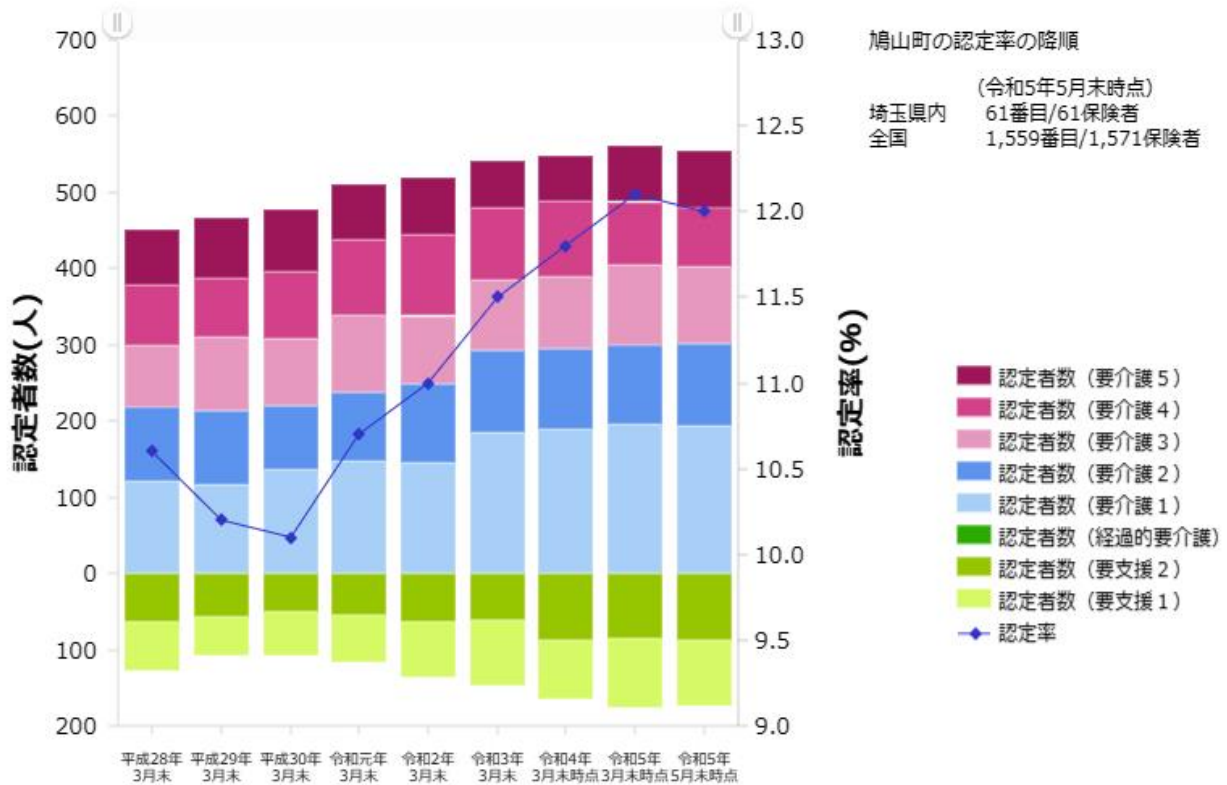
高齢夫婦世帯の割合



			2015	2016	2017	2018	2019	2020
鳩山町	高齢夫婦世帯の割合	(%)	19.3	20.1	20.9	21.7	22.4	23.2
鳩山町	高齢夫婦世帯数	(世帯)	1,022	1,067	1,112	1,157	1,202	1,247
鳩山町	総世帯数	(世帯)	5,292	5,309	5,327	5,344	5,362	5,379

(注目する地域) 鳩山町
(出典) 総務省「国勢調査」

鳩山町の要介護（要支援）認定者数、要介護（要支援）認定率の推移

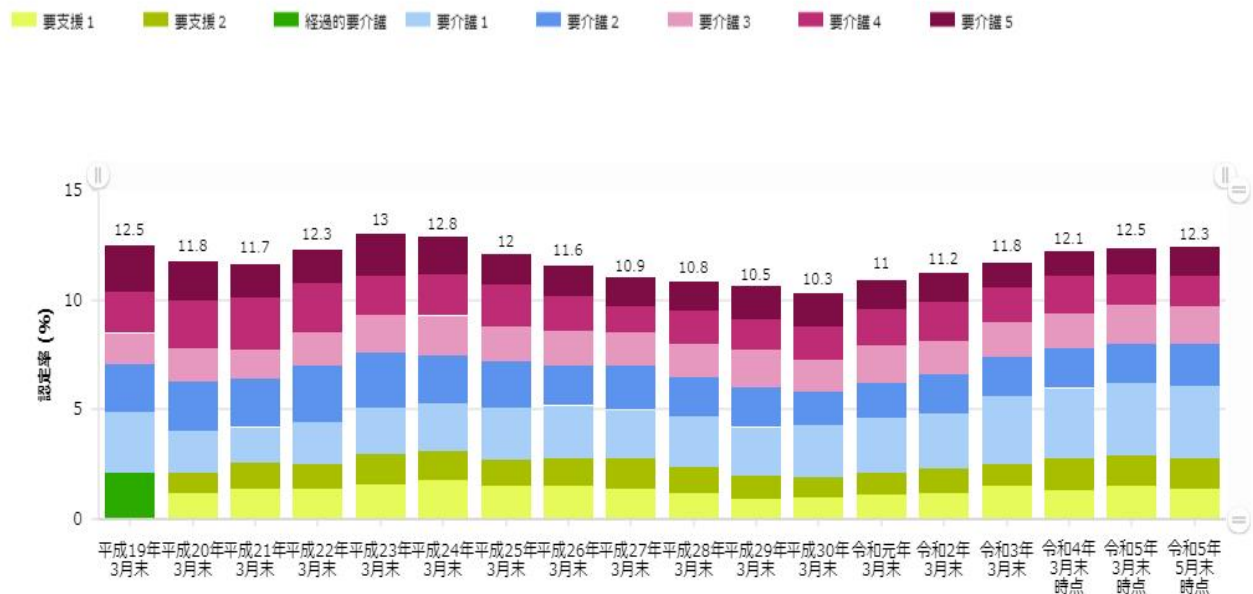


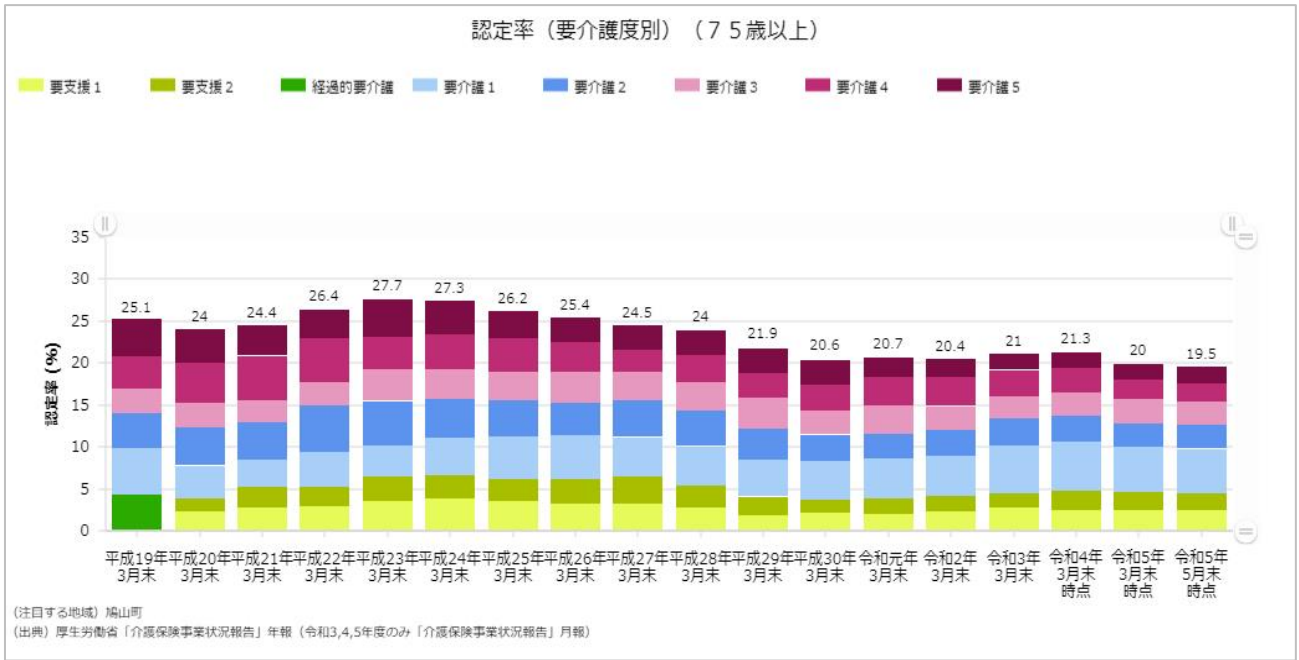
(出典) 平成27年度から令和2年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」、令和3年度から令和4年度：「介護保険事業状況報告（3月月報）」、令和5年度：直近の「介護保険事業状況報告（月報）」

高齢福祉サービスの一つである介護保険サービスにおいて、ここ数年認定率が上昇傾向にあります。鳩山町は、認定率は全国に比べ低い状況であり、また介護度も比較的軽い方が多い傾向にあります。

今後も、介護認定を受けても、重度化しない又は改善ができる取り組みが必要とされています。

認定率（要介護度別）※第2号被保険者を含む

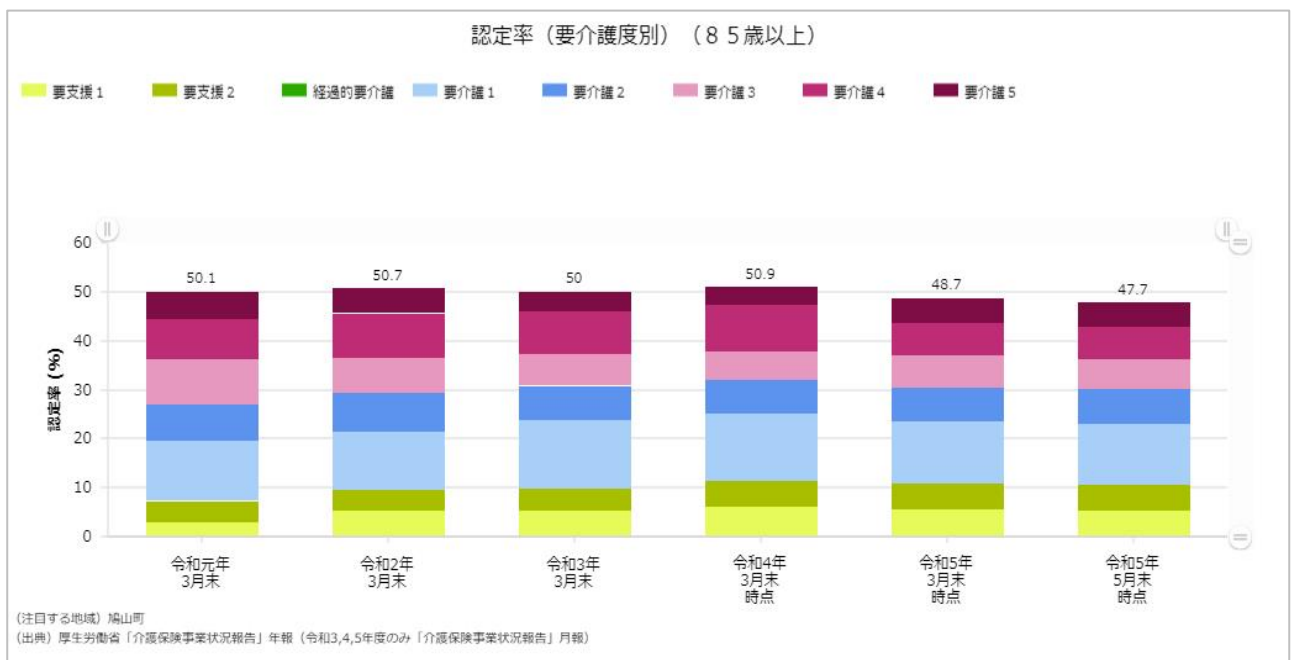


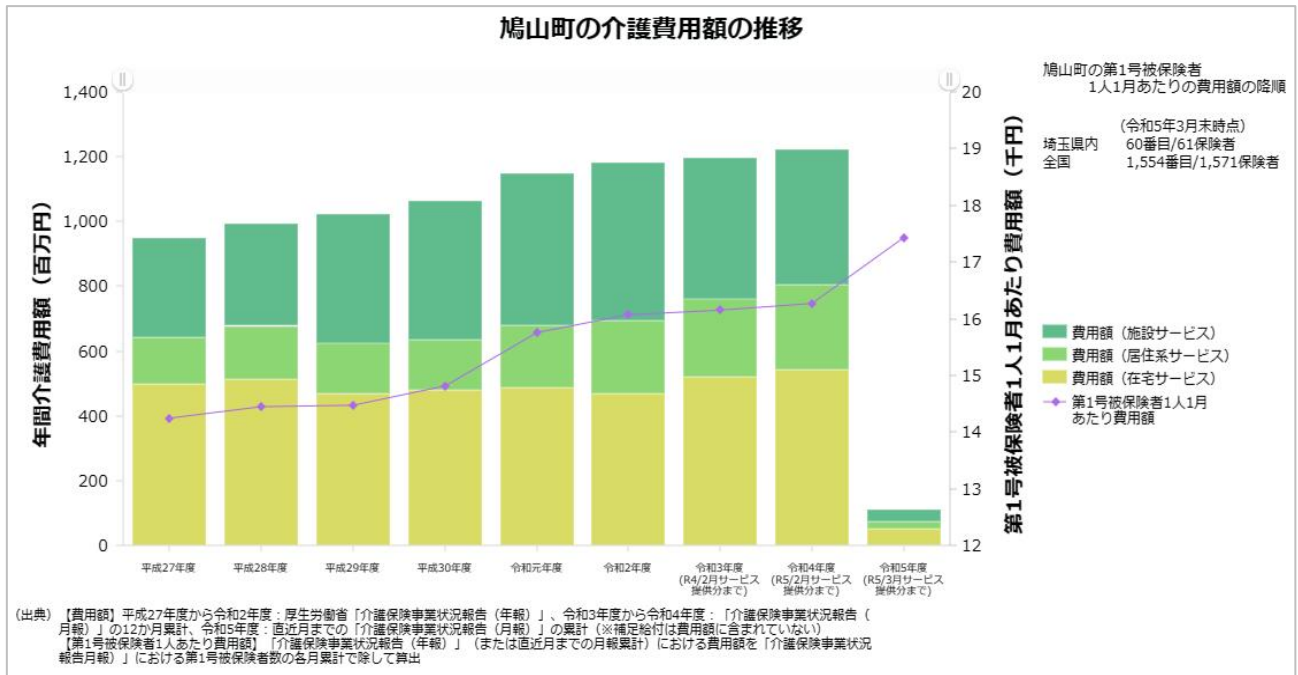


認定率を年齢別で見ると、全体の介護認定率は12.3%（R5.5月末）ですが、75歳以上では、19.5%、85歳以上では47.7%と、85歳以上では、おおよそ2人に1人は介護認定を受けています。

これらの数字から、65歳以上74歳未満の方の認定率は、75歳以上及び85歳以上の方の認定率より低い状況ですが、人口の将来推計から75歳以上の方の人口増加が見込まれるため、全体の認定率は上昇していくと考えられます。

そのため、今後も介護サービスの基盤の整備及び介護費用の確保（適正な保険料の設定）が重要になってきています。



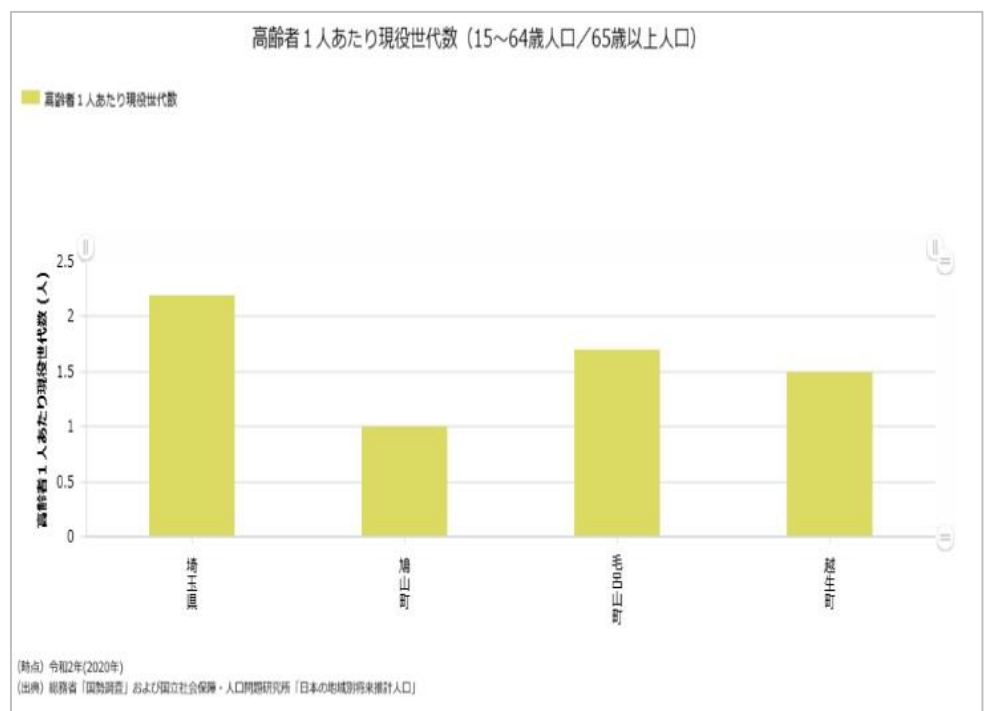


第1号被保険者の1人あたりの費用額については、認定率の上昇に伴い、年々上昇しています。その中でも、在宅サービスが上昇しています。

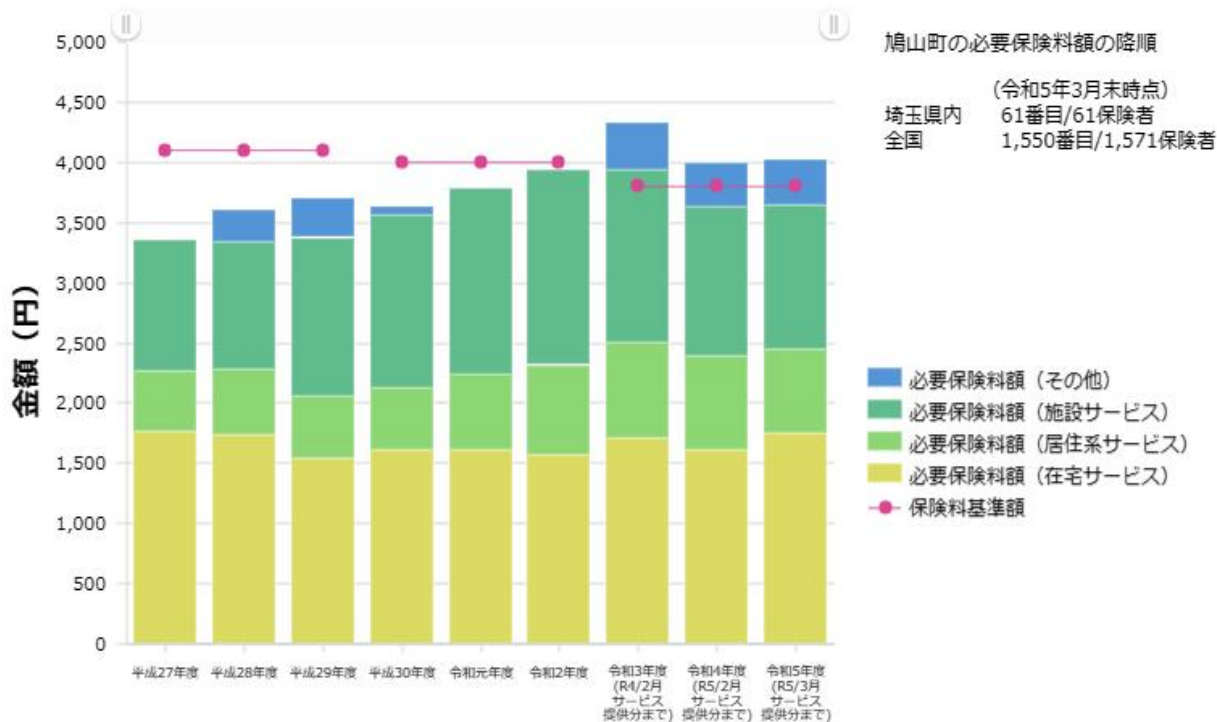
R1からのコロナ禍において、特に施設サービスの新規利用者の制限等あり、十分に施設系サービスの利用ができていないことも、在宅サービスの上昇につながっている可能性があります。加えて、在宅サービスを利用しながら自宅で生活できる体制が、徐々に整備されていることも理由の一つである可能性があります。

今後は、施設サービスの利用希望等をきちんと把握し、サービス基盤整備を反映する必要があります。

しかしながら、鳩山町において高齢者1人あたりを支える現役世代は、R2において既に「1人」であるため、介護費用については特に精査していく必要があります。

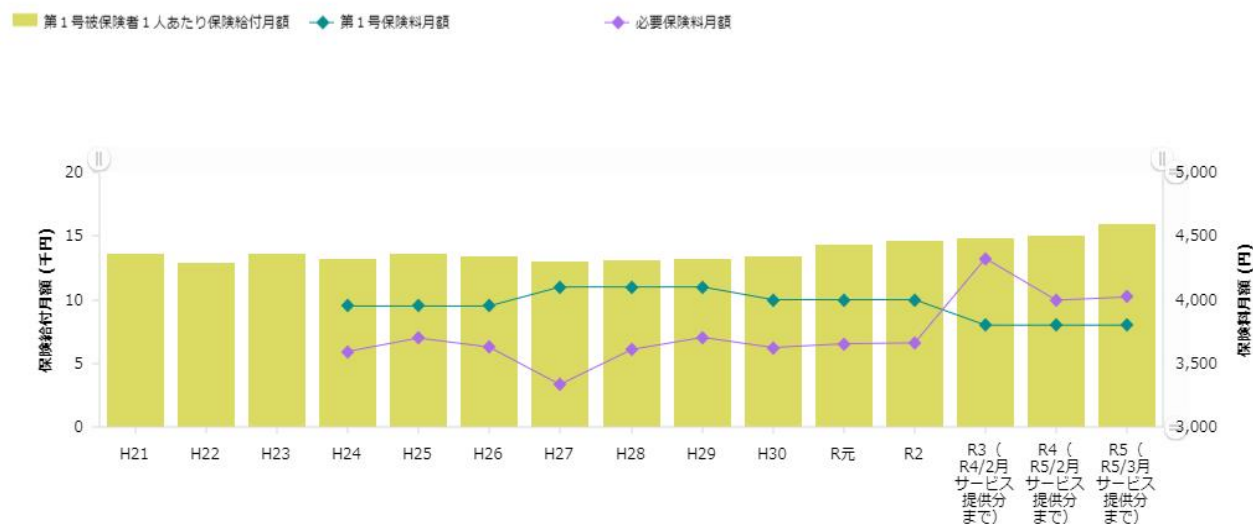


鳩山町の保険料額の推移



(出典) 【必要保険料額】平成27年度から令和2年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告(年報)」、令和3年度から令和4年度：「介護保険事業状況報告(月報)」の12か月累計および介護保険事業計画に係る保険者からの報告値、令和5年度：直近月までの「介護保険事業状況報告(月報)」の累計および介護保険事業計画に係る保険者からの報告値
【保険料基準額】介護保険事業計画に係る保険者からの報告値

第1号被保険者1人あたり保険給付月額・第1号保険料月額・必要保険料月額



(注目する地域) 鳩山町
(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3,4,5年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)および介護保険事業計画報告書

第8期の保険料は、月3,800円(基準額)ですが、すでに保険料基準額より必要保険料額が上回っています。

第9期に向けて、今後必要とされる介護費用額と保険料基準額が同額になるよう、検討して必要があります。